

鹿児島学習定着度調査結果について（リーフレット版）

各学校及び教員においては、目の前の児童一人一人が、どの問題がなぜできなかったのか、また、どの部分でつまづいたのかをしっかりと把握し、どのような授業を行えばよかったのか、そして今後どのような授業を行うべきなのかを振り返ることが重要です。

このリーフレット版では、自校・自学級の結果を書き入れることで、各教科における県の全体通過率との比較や、課題となっている設問との比較ができるように作られています。

県の平均通過率と自校の結果

	国語	社会	算数	理科
自校・自学級の結果				
県平均	68.5	65.3	74.6	75.4

国語

【課題が見られた問題の概要】

設問番号 **4** 全体版 P13

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現すること

県平均	自校・自学級
32.8	

ポイント

- 問題の意図を捉えて、自分の考えや根拠を明確にするために、次のことが大切です。
- 一人で記述する時間、グループ等で話し合う時間、振り返りを行う時間を十分に確保すること
 - 評価規準から「おおむね満足できる」状況（B）を具体化し、評価と指導の一体化を行うこと

社会

【課題が見られた問題の概要】

設問番号 **3** (3) 全体版 P16

米の消費量の増大に向けた、国や市の取組の理由について説明すること

県平均	自校・自学級
56.5	

ポイント

- 授業において、グラフを読み取る場面を多く取り入れ、変化を意識させることが有効です。
- グラフを読み取る場面で、変化を意識させる5つのポイント。
①段々上がる、②段々下がる、③突然上がる、④突然下がる、⑤変化なし

算 数

【課題が見られた問題の概要】

設問番号 3 (2) 全体版 P19

単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解していること

県平均	自校・自学級
48.5	

ポイント

- 式が何を意味しているかを読み取る活動を取り入れた授業や、単位量当たりの大きさが明確になるような授業を行うことが大切です。
- 混み具合を比べる場合は、単位量当たりの大きさが明確になるように図に工夫して表し、その図を根拠に式を立てて求めることが大切です。

理 科

【課題が見られた問題の概要】

設問番号 8 (2) 全体版 P22

温度による溶ける量の違いについて、予想したことに対する実験結果の見通しを適切に考察すること

県平均	自校・自学級
50.9	

ポイント

- 自らの予想や仮説を基に観察、実験を計画する際に、自分の考えが正しければどのような結果になるのか、結果の見通しを具体的に表現するように働きかけます。
- 定性的な表現だけでなく、定量的に表現させることで根拠が明確になり、他者と比較する際に相違点が明確になります。これによって着眼点が焦点化され、主体的に観察、実験を行うことにつながります。

児童生徒質問紙及び学校質問紙について 全体版 P6

- 「授業がよく分かりますか。」という質問項目では、全体として児童生徒が「よく分かる」と回答している割合が増加していることから、児童生徒にとって「分かる」と実感できる授業改善が行われつつあると考えられます。また、小学校では授業の内容に関する調査で、【主体的な学び】、【個別最適な学び】、【協働的な学び】の3項目において、「よく行った」と回答した児童の割合が昨年度を上回っていました。
- これまで本県の課題である「自己肯定感」に関する項目については、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と実感している児童生徒の割合が増加しており、このことが「自分にはよいところがある。」と感じる児童生徒の割合の増加にも、関係していると考えられます。
- 「自分で計画を立てて勉強をしているか」という質問項目では、小学校5年生から中学校1年生にかけて大きく減少しています。児童生徒に学び方を身に付けさせ、自己調整しながら学習する習慣を、小中で連携して育成していくことが大切です。
- 「ICTの授業での活用」に関する質問項目では、学年、教科、市町村(学校)間において、1人1台端末等の活用頻度の差が見受けられます。好事例等を共有して共通実践するなど、組織全体で取組の良さを実感し、活用が進むような手立てが必要です。